



日本看護科学学会 若手の会
第4回北海道エリア検討会

続・はじめての国際論文投稿： 査読者目線を可視化する



2026年3月8日（日）、第4回北海道エリア検討会をオンラインにて開催いたしました。前回の続編となる今回も、日本看護科学学会の活動・評価報告書（2023-2024年度）をもとに、若手研究者の国際発信をテーマに据え、国際論文投稿の葛藤や工夫を共有し、今後の取り組みへの動機づけやヒントを得ることを目的に企画してみました。



本検討会には、全国各地から20名（北海道7名、東北1名、南関東7名、東海1名、関西3名、九州・沖縄1名）の皆さまにご参加いただきました。講演では、荻原氏の「メイク&ギブで気づけた国際論文の査読日記」、石貫氏の「査読経験が教えてくれるアクセプトへの道しるべ」が発表され、若手研究者が国際論文の査読を受ける際の課題や工夫などが取り上げられました。

フリーディスカッションでは、査読経験を通じて、執筆における論理構成や研究デザインの重要性について意見交換が行われ、参加者の関心をもとに活発な議論が展開されました。本検討会は、国際論文投稿に向けた具体的な示唆を得るとともに、今後の研究活動や論文執筆への意欲を高める有意義な場となったと考えられました。

参加者アンケートのコメント（抜粋・一部改訂）

- 査読者の具体的視点や査読経験の詳しい共有があり、とても勉強になった。
- これまで理解しにくかった査読コメントの意図が少し見えてきた内容だった。
- 自身の論理の飛躍に気づき、論述の丁寧さを見直す必要を感じた機会だった。
- 図表の細部まで配慮することが論文の質を高めると実感できた。
- 査読の視点から投稿への向き合い方を学べた説得力のある講演だった
- 普段共有されにくい査読の実際を知ることができた貴重な機会だった。
- これから投稿予定の研究者にも示唆の多い有意義な検討会だった。

北海道エリアコーディネーター
石貫智裕・片川俊太郎・黒木慎一・荻原弘幸